

内容一新!

# 檀家さんへのメッセージ

## 本光寺の檀家会員の皆様に・・・

35世住職 尾藤宏明

本光寺の檀家会員の皆様に、もっと本光寺の取り組みを知っていただくために、「はひふへ本光寺」の中にページを設けさせていただきました。

本光寺は、1361年の開基以来、約660年の歴史を持った「日蓮宗」のお寺です。

私は、昭和58年11歳の時に出家しました。そして、平成5年34世住職の逝去にともない、20歳で本光寺35世住職として就任し今日に至っています。私が住職になったばかりの時は、檀家会員の皆様から暖かい叱咤激励を頂き、私自身も自己研鑽に努め約30年の年月を重ねました。約30年の中で、世の中の変化は、多大なものでした。

ご承知の通り、家族間も核家族化になり、ご先祖に対しての考え方も変わってきました。本光寺でも、檀家会員の高齢化、先祖供養の変化、本光寺の大祭参加方法の変化など、時代の変化の波に対応してきました。私自身も昨今の高齢化社会に対応していくことの重要性をしみじみと感じております。

さて、お寺は誰の物でしょうか？お寺は、住職の持ち物ではありません。日蓮宗の持ち物であり皆様の共有財産です。そして、お墓は誰の物でしょうか？お墓は、本光寺の持ち物ではありません。皆様の持ち物であり財産です。では、ご自身が高齢になった（失礼ですが）現在、どのようにしてお墓を守るのでしょうか？自分が亡くなったら誰も継ぐ人がいないから、お墓を閉めれば良いというお考えの方がいらっしゃいます。ここで、



最初の問いかけにつながります。お墓は檀家会員の持ち物なのです。お墓の撤去費用（小さいお墓15万円より）は誰がお支払いするのでしょうか？お墓の中に安置している「骨壺（お骨）」はどうするのでしょうか？永代供養をお願いする志納金（1壺10万円より）は誰がお支払いするのでしょうか？供養を重ねてこられた先祖に対する皆様のお気持ちはどうなるのでしょうか？

本光寺では、皆様と一緒にこれらの問題を考えていきたいと思えます。「お寺の垣根をなくしたい」という考えのもと、私は、常に接してきました。このことは、当然、檀家会員の皆様との垣根をなくしたいという考え方もあります。

お墓のことで分からないことは本光寺にまずご相談ください。葬式や法事のことでも分からないことがあったら、とりあえずご連絡ください。本光寺では、皆様からのご相談、ご質問に関しては親身になって向き合いたいと思っております。

まずは、ご挨拶まで。

35世住職 尾藤宏明

は  
ひ  
ふ  
へ  
本  
光  
寺

ほんこうじ

## 第26号

令和4年8月発行

西暦 2022  
仏暦 2565  
祖暦 800  
皇暦 2682

木魚のぼっくん



お寺にいる木魚の化身。頭をたたいて「ぼくぼく」と鳴らしている。

ぴかりん住職



ぼっくんのいるお寺の住職。

# 本光寺のファンの方へ「もっと知りたい本光寺」

## 木魚のぼっくんの本光寺探索



こんにちは、木魚のぼっくんです。「はひふへ本光寺」も新規リニューアルということで、僕も心機一転、本光寺のために頑張っていこうと思います。頼りないけど(涙)。

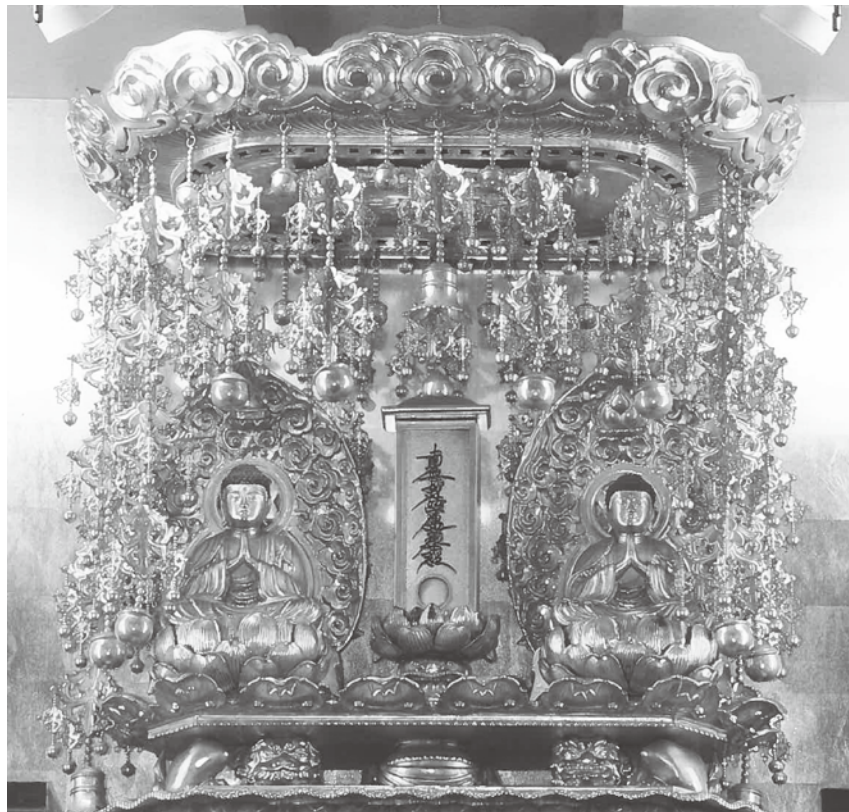
今回は、ぴかりん住職が法務でいらっしやらないので、一層緊張していますが、皆さん、よろしくお願いたします。

第一回目の本光寺探索は、やはり本堂の「一塔両尊」からご紹介しましょう

本光寺の本堂の正面の最上段に「宝塔」、向かって左隣りに「釈迦如来」、右隣りに「多宝如来」が勧請されています。「宝塔」には、南無妙法蓮華經のお題目が刻まれています。「釈迦如来」は、仏教の開祖であることは、皆さん、知っていますよね。「釈迦如来」=お釈迦様という名前でも呼ばれています。お釈迦様の考えを衆生(私たち)に伝えるため、辻説法をされていた時、突然、地中から宝石や貴金属で飾られた巨大な宝塔が出現し、空中に浮かびました。「宝塔」の中からは「あなたの説く法は真実である」と、声が聞こえました。その声は「多宝如来」でした。「多宝如来」は自分が座っている場所の隣りに、お釈迦様を招き入れました。お釈迦様は、「多宝如来」の隣りに座り、衆生に説法を続けました。「多宝如来」は法華經の教えで悟りを開いた人です。世界中のどこでも、お釈迦様の教えの法華經を教える人がいたら、私は「宝塔」とともに現れますと誓われたという話があります。

本光寺の「一塔両尊」は、日蓮聖人が法華經の仏の世界を文字で表した十界曼荼羅を基に、仏像として造形化しています。「宝塔」「釈迦如来」「多宝如来」は、1つのセット(お釈迦様に失礼ですけど…)と言えますね。

お釈迦様の考え方は、世界中の誰もが平等であるということです。古代インド(現在のネパール)で生まれた「釈迦如来」が説く「仏教」がなぜにインドで広まらなかったかということ、インドには、現在も続く



「カースト制度」という身分制度があったからだと言われています。また、「仏教」の信者には裕福層の方が多くいて、他宗教(イスラム教)が進行した時、目の敵にされて略奪・迫害を受けたから、とも言われています。

そういう中、仏教が古代中国に伝わり、日本に伝わり、「日蓮聖人」が妙法蓮華經の教えを説くことによって、本光寺の宗派である「日蓮宗」が広まったと言われています。本光寺は1361年に日胤上人が創立して以来660年を超える歴史があります。

そうそう、本光寺の本堂を参拝する時には、ルールがあることを知っていますか？

- ① 本堂に参拝する時は、必ず「数珠」を着用することになっています。その数珠も正式な数珠(ブレスレット型は不可)です。お持ちでない方は、寺務所に申し出て下さい。カラフルな「数珠」を用意しています。
- ② 本堂に参拝し、ご本尊様に挨拶をする

ときは「伏拝(ふくはい)」をしてください。これも分からないときは、寺務所に訪ねてお聞きください。

- ③ カジュアルな服装でも構いませんが、お寺に参拝するのにふさわしい服装が好ましいです。皆さんの常識の範囲内での服装で参拝してください。

一番大切なことを最後に皆さんにお話しします。本光寺は「日蓮宗」のお寺です。お参りいただくときは「日蓮宗」の作法に沿ってお参りをしてくださいね。他宗派宗門の方のご参詣を頂くことは嬉しいですが、作法は「日蓮宗」の作法でお願いいたします。

僕(木魚のぼっくん)からのお願いでした。

今後も僕(木魚のぼっくん)が、本光寺を紹介させていただきますので、楽しみにしてくださいね。

ありがとうございました。

## 木魚のぽっくんの独り言



今回から、僕（木魚のぽっくん）が色々な担当を務めさせていただきますが、本光寺では、令和2年9月よりオンライン参拝（朝参り会）を始めています。

その中の質問の一部を紹介できたらと思います。色々なご質問があるので、全部のご質問の紹介はできません。今後も、おいおいご紹介させていただきます。

Q

今年の始めに父が亡くなりました。四十九日法要は本来の四十九日より少し早めに行いましたが、その二日前に孫が「おじいちゃんの夢を見た」と連絡してきました。夢の中で父は孫に「向こうへ行かなくちゃいけないのはわかってるんだけどなあ。まだ行きたくないんだよ」と涙ぐみながら言い、孫は号泣しながら目が覚めたそうです。父が孫の夢に出て本当の気持ちを伝えてくれたのではないかと思います。

そういった場合「早く霊山浄土へ行けるように」とお参りさせていただくのではなく本人の気持ちを尊重し、父の気持ちが「そろそろ行こうかな」と思えるようになるまで素直な気持ちでお経をあげさせていただけば良いでしょうか？

A

ご質問ありがとうございます。

人はお亡くなりになった日を一日目と数え始めて四十九日目をもって霊山浄土を目指して旅立ちます。

旅立った後、この世で知らないうちに作ってしまった罪、この世への名残の気持ち・迷いの気持ち、煩惱といわれている欲、これらを一つ一つ消しながら歩んでまいります。つまりは、仏になるための修行をしながら歩いていくのです。

おじいちゃんの「まだ向こうへ行きたくないんだよ」という気持ちは正に名残の気持ち・迷いの気持ちです。お孫ちゃんとサヨナラしたくないという正直な気持ちです。

しかしながら、おじいちゃんがこの気持ちにこだわり過ぎると迷いの気持ちを脱することができずに、霊山浄土に入れなくなってしまいます。

おじいちゃんは三回忌までに罪や迷い、煩惱が消えて魂が清らかなになり霊山浄土に入ることができます。ですので、それまでの間、おじいちゃんが迷いの気持ちを克服できることを、温かいお気持ちでお見守りいただければ、と思います。

また、ご遺族の方々も心のなかは寂しさや悲しみで満ちあふれていると思います。三回忌のときに、私は大丈夫ですよ、私たちは大丈夫ですよ、と故人様が安心して霊山浄土に入れるように、日々、寂しさや悲しみを少しずつ取り除いていただければと思います。

色々みなさんの質問を朝参り会・夕参り会でお受けしています。

朝参り会は、今はサマータイムを導入していて朝6:00から7:00くらいまで、夕参り会は、毎週日曜日、夕方16:00から16:30くらいまで行っています。是非参加してくださいね。



## 本光寺の檀家会員の皆様に・・・

35世住職 尾藤宏明

もう少し皆様にお話をさせてください。本光寺では、毎朝、朝参り会として、私の朝のお勤めをYouTubeで配信しています。その中で毎日、檀家のご先祖様の命日には戒名を読み上げ、また毎日、皆様のご先祖のご供養をさせていただいています。

朝参り会には、オンラインでのメンバーもおりますが、あくまでもYouTube「本光寺ライブ」のメンバーであり、檀家ではありません。檀家会員とは全く別のものです。

本光寺に何年も出入りをされている信者（この方も日蓮宗を信仰されています）が、新春初祈禱祭に参加しようとしてオンラインでの大祭の様子を拝見したところ、本光寺の信者であっても檀家

の中には入ることができない、今回の参加はご遠慮させていただきますとお断りの電話をいただきました。

皆様はそれほど意識をされていないと思いますが、檀家の目に見えない、本光寺に対する想いは、信者や他の方々をも圧倒するのです。

私は、皆様とともに、本光寺の現在、本光寺の未来を考えていきたいと思っています。檀家は本光寺の大切な核たる正会員ですので、ぜひ、本光寺のことをご理解いただければ幸いです。

檀家会員の皆様は、本光寺では、特別な存在です。今も、そしてこれからも・・・

### 総代さんの紹介

総代とは、檀家会員の皆様の代表となっていていただいている方々です。ここに紹介させていただきます。

- 高橋 春男 さん
- 竹木 功 さん
- 渡来 隆雄 さん
- 高橋 治 さん

### 編集後記

皆様、リニューアルした「はひふへ本光寺」は、いかがだったでしょうか？発行も年2回になり、今後も私がお伝えしたいことは沢山ありますが、分かり易く、丁寧に説明ができればよいかなと思います。

今回、檀家会員と一般の方に分けてメッセージをお伝えしました。本光寺を支えてきた檀家会員の皆様、本光寺のファンである一般の皆様、それぞれの方々にメッセージが伝わりますように、今後とも精進してまいります。

「お寺の垣根をなくしたい」との信念を持ち、これからも頑張ります。

合掌

35世住職 尾藤宏明